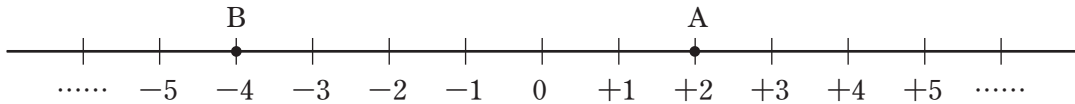


2	正負の数：正負の数	年 組 番	/ 15問
	数の大小	名前	

知 1 次の□にあてはまるものを書き入れなさい。

(1) 下の数直線で、点Aに対応する数は□ **+2** □で、点Bに対応する数は□ **-4** □です。



(2) 大小を表す記号<, >のことを□ **ふとうごう 不等号** □といいます。

(3) 数直線上で、ある数に対応する点と原点との距離を、その数の□ **ぜったいち 絶対値** □といいます。

技 2 次の問いに答えなさい。

(1) 下の数直線上に、次の数に対応する点を表しなさい。

- ① -2.5 ② +6 ③ $-\frac{1}{2}$ ● $-\frac{1}{2}$ は-0.5なので、原点より



ポイント 数直線上で0が対応している点を原点という。負の数は原点より左側、正の数は原点より右側に表す。

(2) 次の各組の数の大小を、不等号を使って表しなさい。

- ① -8, -12 **解法テク** 数直線上で右にある数ほど大きい
ことから考える。負の数は、絶対値が大きいほど
小さいことにも注意しよう。 (**-12 < -8**)
- ② $+\frac{1}{3}$, $-\frac{1}{3}$ (**$-\frac{1}{3} < +\frac{1}{3}$**)
- ③ -0.5, +3, -0.32 (**$-0.5 < -0.32 < +3$**)

技 3 次の問いに答えなさい。

●数直線上で、その数に対応する点と原点との距離なので、+、-

(1) 次の数の絶対値を答えなさい。 **の符号をとった数になる。**

- ① +3.6 ② -3.6 (**3.6**) (**3.6**)
- ③ $-\frac{1}{2}$ ④ +55 (**$\frac{1}{2}$**) (**55**)

(2) 2つの負の数があります。一方の絶対値が7、もう一方の絶対値が13であるとき、大きいほうの数を答えなさい。

- 負の数は絶対値が大きいほど小さい。 (**-7**)